様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　７ 年　 ６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３３８０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2024
課題番号：１９Ｋ０２１１７

研究課題名（和文）聴覚障害のある教員の教職経験に関する研究

研究課題名（英文）Research on the Professional Experience of Deaf Teachers

研究代表者
羽田野　真帆（HATANO, Maho）

常葉大学・健康プロデュース学部・准教授

研究者番号：９０６３５０３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、聴覚障害のある教員の教職経験について検討することを目的として、聴覚障害教員が集まるシンポジウムや研修会でのフィールドワークと聴覚障害教員へのインタビュー調査を実施した。本研究を通じて、聴覚障害教員を取り巻く現状と聴覚障害教員のライフストーリーについてデータを収集することができた。また中国の聴覚障害教員3名へのインタビュー調査を実施し、彼らのライフストーリーを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
インクルーシブ教育の推進と2016年の改正障害者雇用促進法を背景に障害のある教職員の採用が推進されてきた。障害のある教職員が力を発揮するためには職場としての学校や教師という職業における社会的障壁を取り除いていくことが求められる。本研究は聴覚障害のある教員に焦点をあて、彼らが教員としてどのような社会的障壁を経験し、その解消に取り組んできたのかを明らかにすることで、インクルーシブな学校環境の創出に寄与するものである。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to examine the professional experiences of deaf teachers through fieldwork conducted at symposia and training sessions led by deaf teachers, as well as through interviews with deaf teachers themselves. Through these investigations, data were collected on the current conditions surrounding deaf teachers and on their life stories. In addition, interviews were conducted with three deaf teachers in China, allowing us to gain insights into their life stories as well.

研究分野：教育社会学、障害学

キーワード：聴覚障害のある教員　聴覚障害教員　ろう教員　手話　障害学　合理的配慮　ライフストーリー　チームエスノグラフィ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）（word ファイルをアップロード）

１．研究開始当初の背景

（１）聴覚障害教員を取り巻く状況

まず、本研究の調査対象である聴覚障害のある教員（以下、聴覚障害教員）を取り巻く社会状況について述べる。2014 年の障害者権利条約の批准以降、文部科学省は「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」の一環として、障害のある教職員の採用を推進しており、本研究を開始した 2019 年 4 月には文部科学省から「障害のある人が教師等として活躍することを推進する～教育委員会における障害者雇用推進プラン～」（通知）が出されている。また、2016 年に施行された改正障害者雇用促進法によって障害のある教員に対する合理的配慮の提供が義務化され、障害教員が働きやすさを求める際に法的根拠を持って教育委員会や学校と交渉することが可能となった。

聴覚障害教員は、自らが労働者として合理的配慮を求める立場でもあると同時に、児童生徒のニーズに応じた教育をしたり、合理的配慮を提供したりする立場である。聴覚障害教員の多くが勤務する聴覚特別支援学校（ろう学校）では、「手話は言語である」という認識が広まり、聴覚障害教員（ろう教員）には手話話者としての役割が期待される一方で、人工内耳を装用した子どもを受け持つことも増えている、という状況も明らかになっていた。さらに、特別支援教育制度の施行以降、ろう学校以外の特別支援学校に配属となる聴覚障害教員も増えており、ろう学校と他の特別支援学校との間で異動も増えていた。このように聴覚障害教員は、学校種や勤務校の教育方法、担当する児童生徒などによって、異なる役割が期待されている。

（２）研究背景

上述した聴覚障害教員を取り巻く社会状況は、障害学の文脈に位置付けて整理することができる。障害学とは「障害とは何か」という問いを追究する学問であり、障害を治療の対象として捉える「医療モデル」に対して、障害（disability）とはインペアメントのある身体を考慮しない社会の側にあることを指摘し、「社会モデル」を提唱した。また「ろう文化宣言」（1995 年）で提起されたように文化的側面を強調する議論は「文化モデル」として整理されている。そして、人工内耳装用者の増加は、「聴覚障害」を治療の対象とする医療モデルの障害観を前提としているのに対し、障害者差別解消法や改正障害者雇用促進法の背景にある障害者権利条約は、社会モデルの障害観がベースにある。また、特にろう学校における教授言語として手話が用いられるようになった経緯には、文化モデルの障害観の影響が大きい。

以上の議論を踏まえると、聴覚障害教員は複数の障害観を背景に持つ社会変化を同時に経験していると捉えることができる。また、聴覚障害教員が児童生徒のロールモデルとなり得るろう学校と、他の障害種の児童生徒が学ぶ他の特別支援学校では「ろうであること」あるいは「聴覚障害があること」の意味合いは異なることから、彼らは複数の文脈の間を移動しながら教師という仕事を続けているとも言える。

そこで本研究では、聴覚障害教員の教職経験を明らかにすることで、「障害」をめぐる文脈の複数性に着目し、調査を実施することとした。

２．研究の目的

本研究では、聴覚障害教員が位置づく文脈の複数性に着目し、チームエスノグラフィによって彼らの職務経験を多角的に明らかにすることを目的とした。また、異動の経験にも焦点をあてることで、職場環境の違い（変化）が彼らの働きやすさを規定している状況も照射することを企図した。

３．研究の方法

研究方法はエスノグラフィ調査である。聴覚障害教員に対するインタビュー調査を中心としながら、全国聴覚障害教職員協議会のシンポジウムや研修会においてフィールドワークを実施した。

４．研究成果

2020 年度以降の新型コロナウイルス感染拡大と研究代表者の体調不良によって、調査活動は限定的なものとなったが、聴覚障害教員を取り巻く現状と聴覚障害教員のライフストーリーについてデータを収集することができたことは本研究の成果と言える。今後、研究期間中に得られたデータの分析を進め、研究成果としてまとめていく予定である。

また 2023 年にはリサーチアシスタントの高望雲氏（筑波大学大学院修了）の尽力により、中国の聴覚障害教員に対するインタビュー調査を実施することができた。加えて、インタビューの予備調査として中国国内の聴覚障害児教育制度や、手話の位置付けと歴史的変遷、障害のある教員の養成や採用に関わる制度について文献調査を実施した。インタビュー調査対象者が限られていることから、本調査の結果から中国の聴覚障害教員の実態をについて述べることは難しいが、中国国内の障害教員については日本国内で入手可能な情報が非常に限られている中で、3 名の教員のライフストーリーを明らかにすることができたことには非常に重要な意義がある。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

―

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	照山　絢子 (TERUYAMA Junko) (10745590)	筑波大学・図書館情報メディア系・准教授 (12102)	
研究分担者	松波　めぐみ (MATSUNAMI Megumi) (80512607)	公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・嘱託研究員 (74331)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関